参考１

# 令和５年度第１回審議会委員アンケート（一部抜粋）

① 審議会のご感想や会議中にご発言いただけなかったご意見等を自由にお書きください。

＜学びのハードル＞

- 学び＝学習、勉学という風にとらえがちなのかなと思った。”日本酒飲み比べ”のように、「食」きっかけ等は面白いと思った
- 「学び」のハードルが高いという意見に考えさせられた。私は常々「学び」とは行動する力と考えている。それぞれの立場で行動できる場であり、行動の視点を学べるなど、様々な力が集まる場であるとよいと考えた。

＜主体的に動く、より良く生きる＞

- つぎは、ひとりひとりが主体的に動き出すためにはどんな場が必要かということを中心に話をしたい。よく知り合う関係性を築くこと、心も体も余白をもてる状態になること、なにかやりたいと思ったときに共有した場所、道具、仲間があることなど。
- 夢に向けて頑張った、興味を持ったということで、結果が伴わなくても、その人の人生に少しでも良い影響を与えることができたというだけで、意義のあることだと思う。
- シニアの学びも、人生の後半で、その学びが「共感」を持って、その人の生き方に何かしらの良い影響を与えられるような学習機会を提供することができれば、「より良く生きる」に繋がり、そこから活躍に発展すれば、なお良いのではないか
- シニアにとって活躍できることは、人生にとって「うれしいおまけ」かなと思う。自分が必要とされたり、評価されたり、認められることは、多くの人が望むことだが、なかなか望み通りにいかない。
- すばらしい活動を見ることができた。私たちは小さいことをボチボチとしていくが、会員それぞれの気持ちを大事に進めていく。

＜AAR 循環＞

- つくラッセル活動そのものが、AAR 循環（自ら楽しいことを考え：Anticipation、実践し：Action、振り返える：Reflection）だと思った。生涯学習としての「学びのあり方」を転換していくものだと考える。
- 生涯学習としての学習機会や場の提供、活躍機会創出などは与えられるものではなく、地域社会の中で創り出して行く「学び・活動・体験」を通して社会の中での自分発見ができる様な施策・取組ができるとよいのでは。目先の活動ではなく長い目で見た活動として社会実験的な取組が期待される。
- AAR 代謝モデルにとても可能性を感じた。未来を志向した生涯学習のありかたを根底においたまちづくりを進めるためには、これまで社会がもっている因果律にもとづく物事の考え方をほぐしていくための評価や表現やツールや場が必要だと思う。

②その他、当審議会に関しての御意見等がありましたら、自由にお書きください。

- 生涯学習としての施策・取組の中身を、如何にして分かり易く市民全体へ浸透させていくか情報発信のあり方に関しても議論できればと考える。
- 現在、広報とよたや様々な SNS 等で情報発信されているが、生涯学習という概念での情報発信は認知されているのかどうか等、市民意識がどうなっているかの調査も必要ではないか。
- 生涯学習のありかたをまちづくりに浸透させていくためどうすればいいかということを議論および試行的に取り組んでみたい。
- 「活躍」とはどういうことを指すのか、「定義づけ」まではいかないにしても、少し審議してもいいのでは。たとえば、シニアにとっては、就労とは異なり、活躍が「うれしいおまけ」でないと長続きしないと思う。